

視野欠損に対する代償動作（視覚探索） を獲得して運転再開に至った1症例

園原和樹，佐藤理恵，藤原敦史，松塚 翔司



桔梗ヶ原病院

2023年7月1日

第60回日本リハビリテーション医学会学術集会

はじめに

視野には中心視野, 周辺視野, 有効視野等の概念があるが、運転に必要となる視野の定義は明らかにされていない。過去の報告では視野障害は運転能力に影響することが指摘されているが、現在の日本の道路交通法では視野障害者の運転可否について明確な基準はなく、視野障害者の運転支援は確立していない。

今回、我々は視野障害者に対する運転支援の工程を①視野欠損領域の認識(病識の獲得), ②視覚代償の獲得, ③運転適性の評価の3つに分けて実施し、運転再開に至った症例を経験した。

症例①

I. 30歳代, 男性。

II. 既往歴

外傷性膝十字靭帯損傷

III. 現病歴

もともと自宅にて1人暮らし、仕事あり(スキー選手)、自動車運転を毎日行っていた。

202X.1/21にスキー外傷のためS病院に搬送され、脳挫傷、脳出血、硬膜下血腫の診断にて入院となった。1/22に開頭血腫除去術が施行され、全身状態安定したため202X. 3/15にリハビリテーション目的で当院に転院した。

症例② 転院時所見

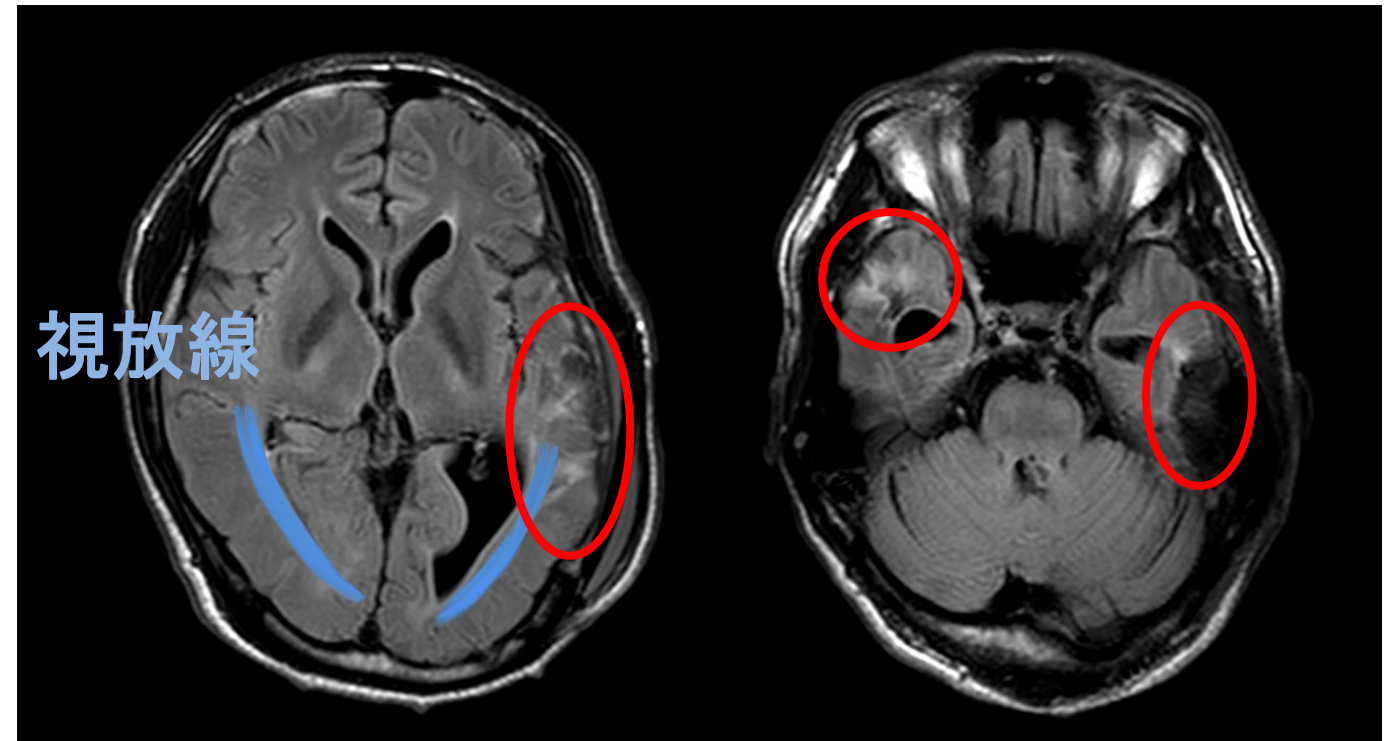
I. 転院時所見

- ①麻痺なし, 四肢失調なし
- ②記銘力低下あり
- ④言語障害あり
- ⑤注意障害あり
- ⑥視野障害不明確
- ⑦半側空間無視なし

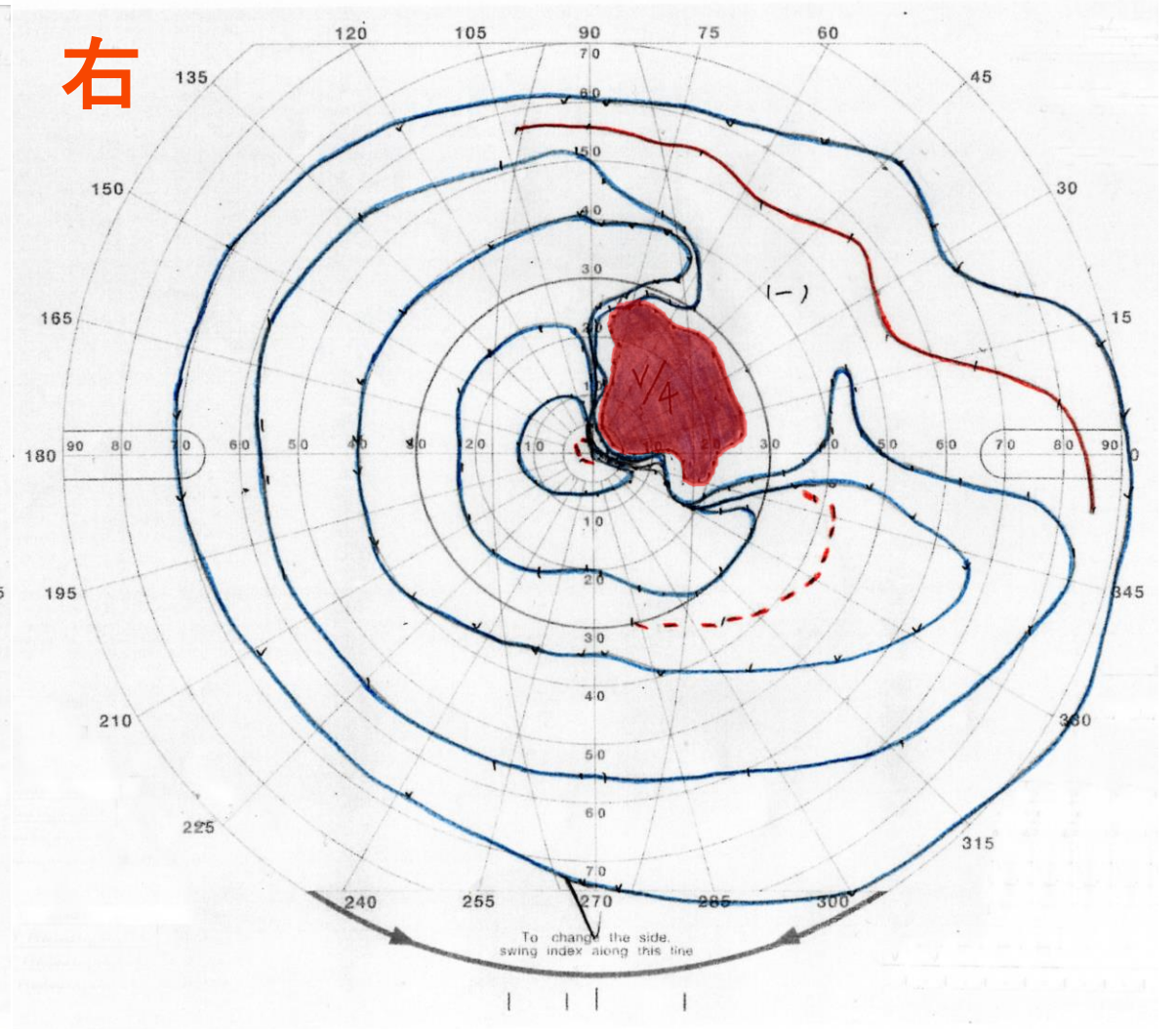
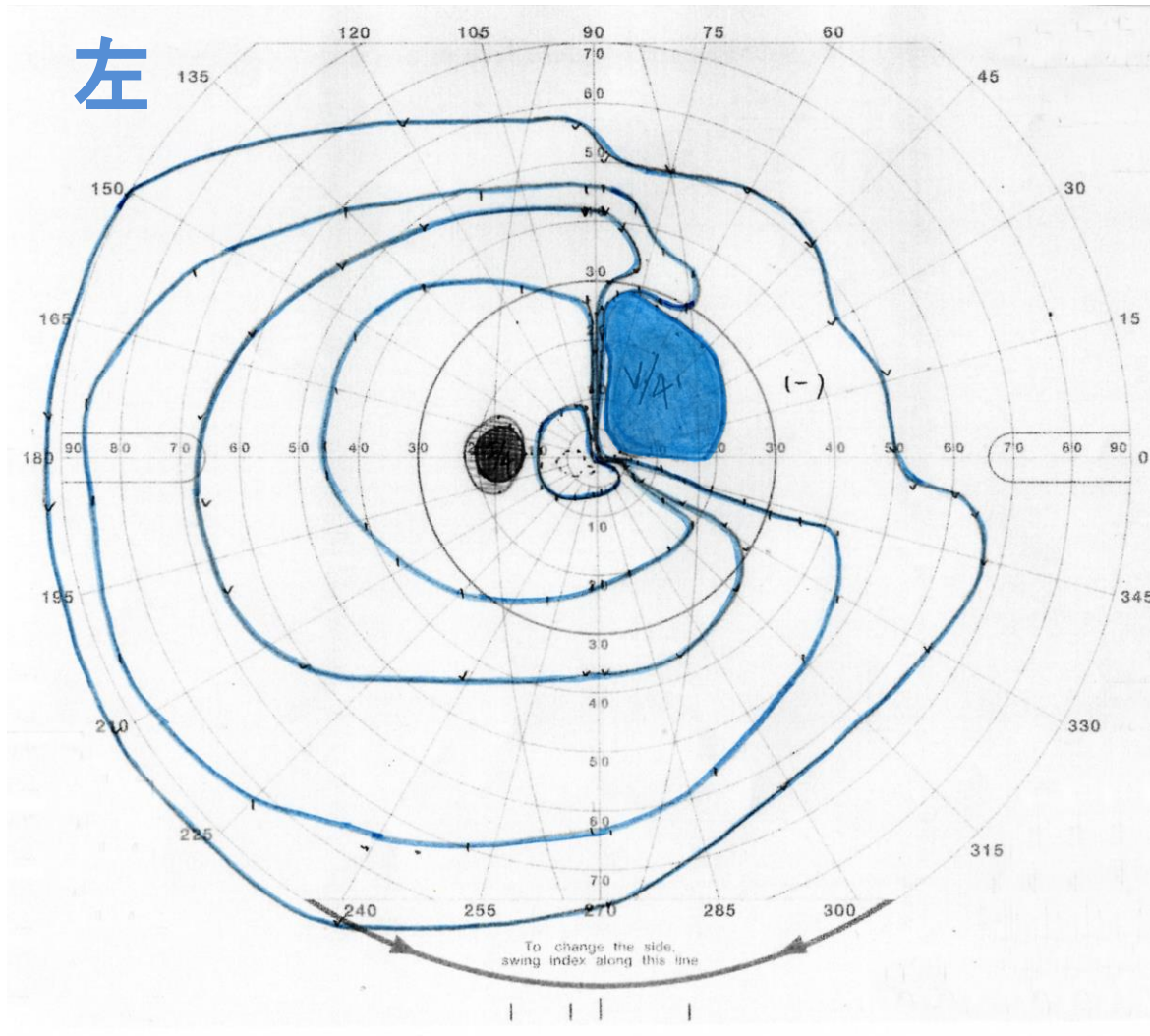
II. 検査所見

- ①頭部MRI検査

両側の側頭葉に脳挫傷(左側の視放線を含む)

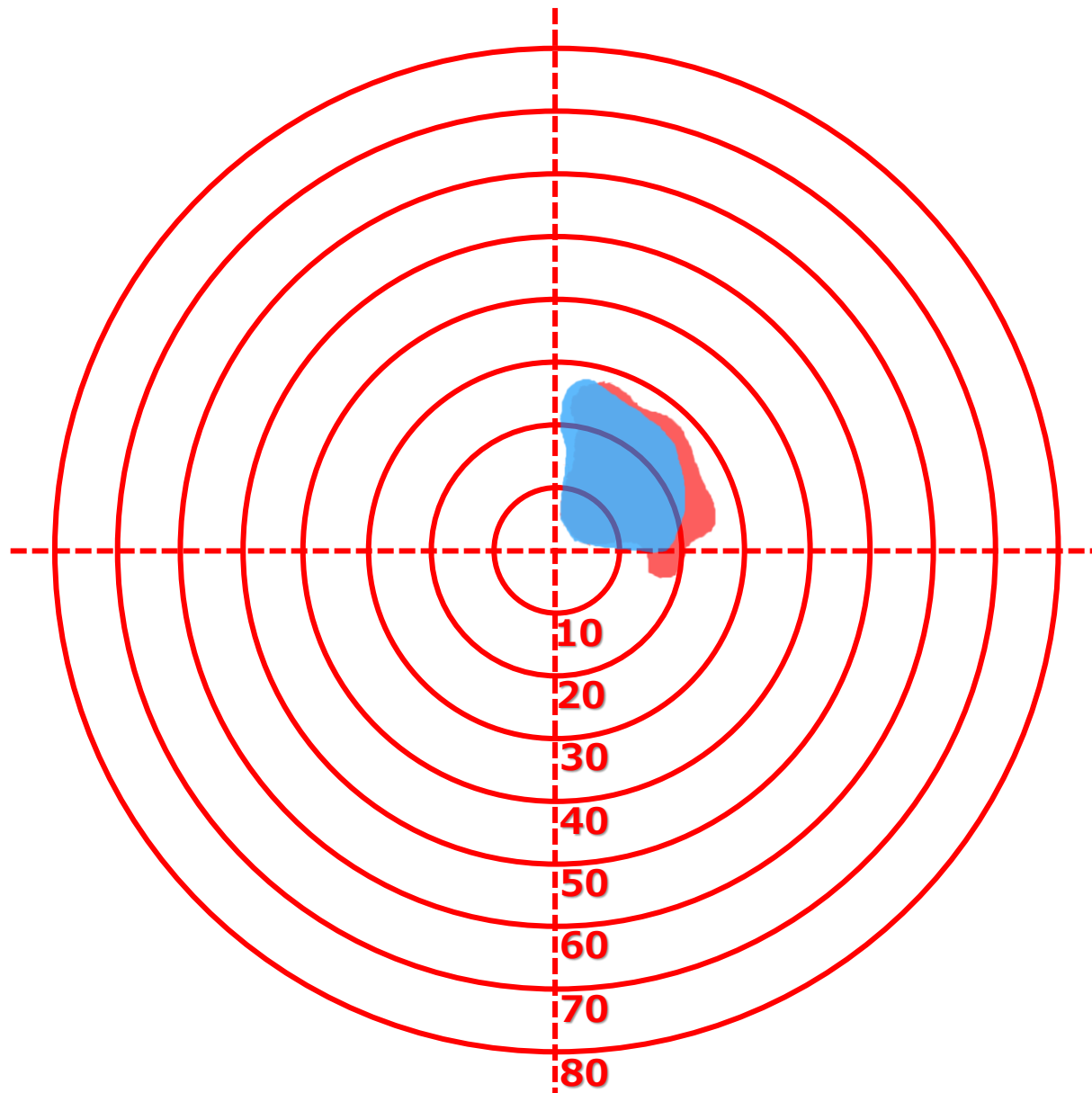


症例③ 視野検査



右上1/4傍中心暗点(中心視野の欠損)

症例④両眼重ね合わせ視野



I. 大脳半球損傷との違い

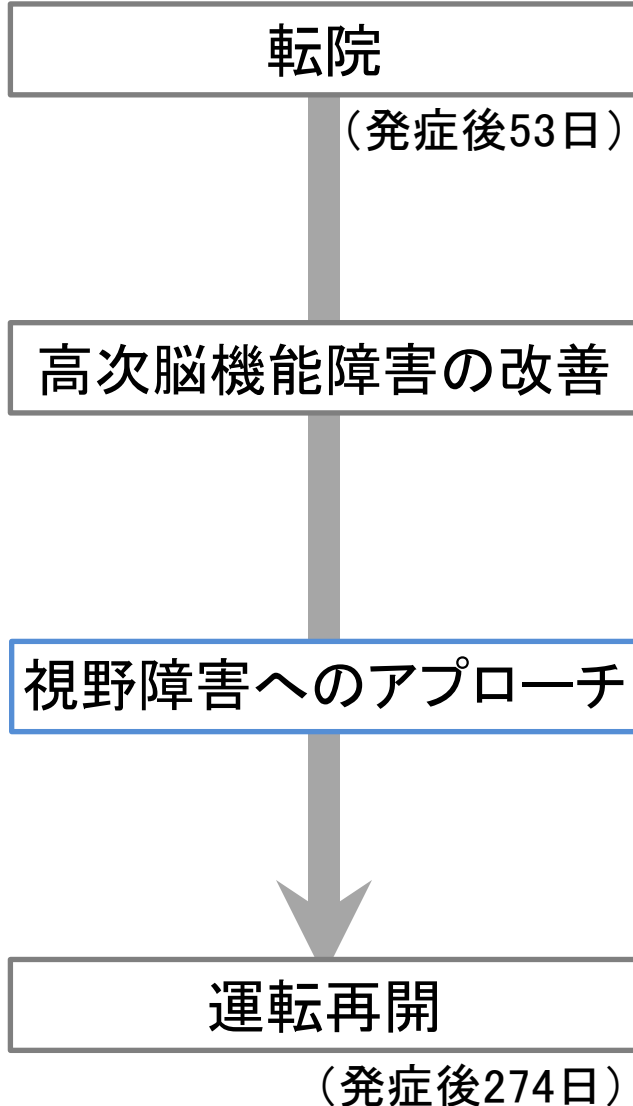
- ①半盲を認めない。
- ②中心視野に視野欠損を認める。
周辺視野に視野欠損を認めない。

II. 眼科疾患との違い

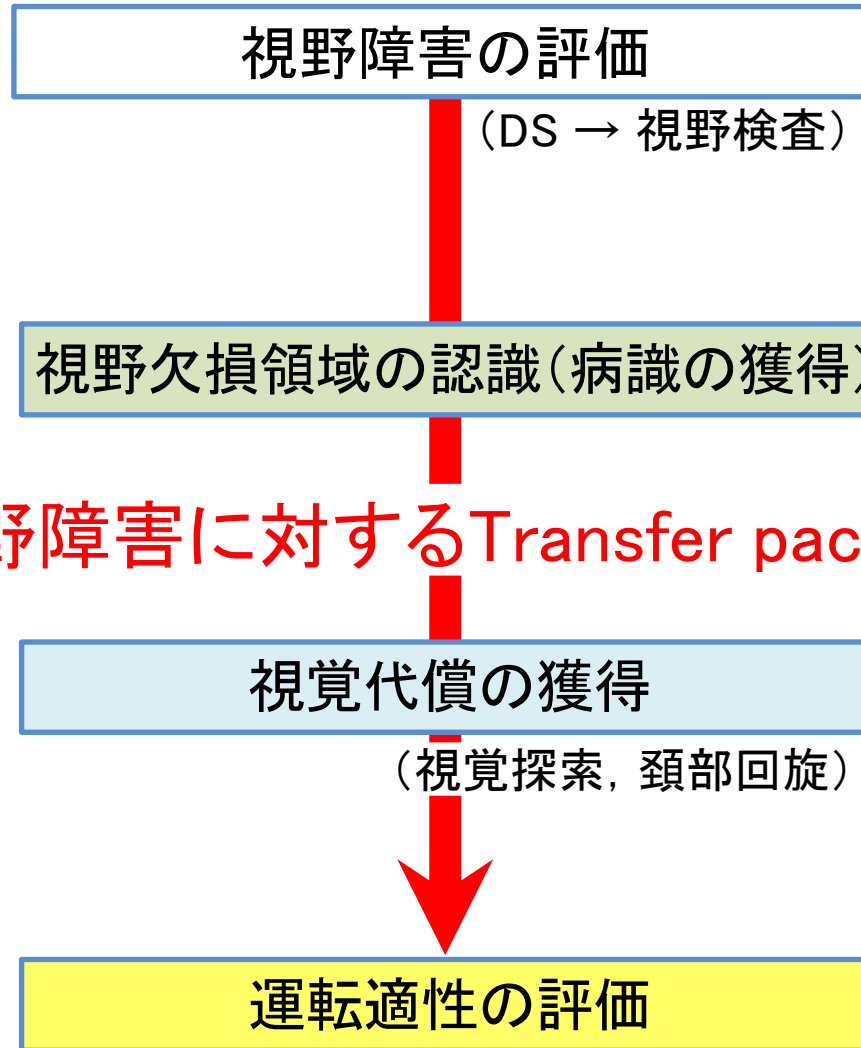
- ①同側性の視野欠損を認める。
- ②視覚代償が獲得されていない。

リハビリテーションの経過

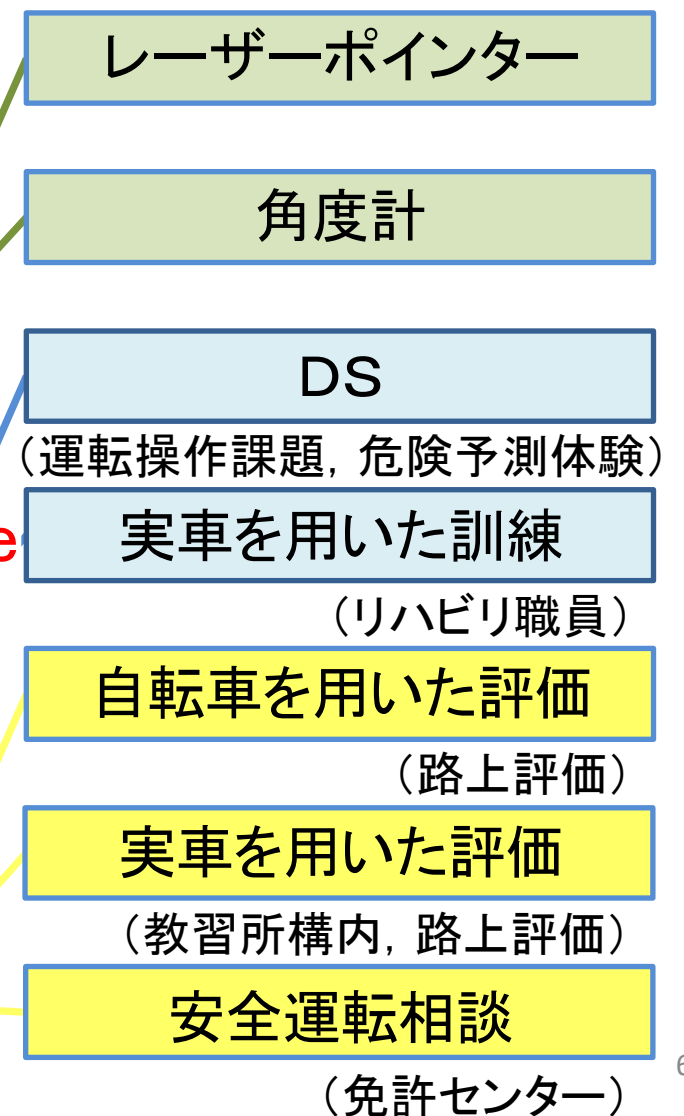
【概要】



【視野障害へのアプローチ】



【視野障害に対する運転支援】



結語

I. 中心視野に欠損のある患者に運転リハビリテーション訓練を行い、視覚代償を獲得して運転再開に至った症例を経験した。

II. 運転支援の工程を①視野欠損領域の認識(病識の獲得), ②視覚代償の獲得, ③運転適性の評価の3つに分けて実施することで、視野欠損のある患者の運転再開への道を開いたものと考えた。

III. 視野障害者の運転リハビリテーション訓練では、視野障害に対するTransfer packageの視点が重要と考えた。